第675号 展示と催し物案内

東京国立博物館ニュース

2006
2・3
月号

天台宗開宗1200年記念 特別展 最澄と天台の国宝 ●2
特別展 書の至宝—日本と中国 ●4
特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」●5
親と子のギャラリー 博物館ってどんなところ？ たてもの編 ●5
特集陳列 幕末の怪しき仏画—狩野一信の五百羅漢図 ●6
平常展見どころ案内 2006年2月・3月
国宝 地獄草紙 ●7
特集陳列「高野コレクション—浅井忠の油彩画」／特集陳列「お雛様と日本の人形」／国宝 平治物語絵巻／国宝 竹斎読書図 など ●8-11
ようこそ！博物館の舞台裏へ 広報室のしごと ●12
INFORMATION コンサートなど ●14
TOPICS ニュージーランド国立博物館 テ・パパ・トガレワ ●15
2006年2月・3月の展示・催し物 ●16

天台宗開宗一二〇〇年記念 特別展
最澄と天台の国宝

天台宗開宗一二〇〇年を記念して、全国の天台宗諸寺院の宝物が一堂に。
国宝三十一件、重要文化財約一〇〇件という質量ともに空前の展覧会にご注目ください。

◉天台法華宗年分縁起（部分） 伝教大師筆 滋賀・延暦寺蔵
平安時代・9世紀 3行目に、有名な「一隅を照らす」の文字が

◉最澄像（聖徳太子及び天台高僧像のうち）（部分）
平安時代・11世紀 兵庫・一乗寺蔵 最澄の涼やかな表情と温かみのある彩色が、親しみやすさを感じさせる

二〇〇六年は、最澄が比叡山に天台宗を起こしてから正に一二〇〇年目に当たります。この節目に延暦寺をはじめ天台宗の諸寺院などから、仏像や経典そのほか数々の宝物をご出品いただき、天台宗の歴史と豊かな仏教美術の展開を一望しようとするのがこの特別展のねらいです。法華経を柱とし、密教や浄土教さらには山王神道などを包含した天台宗の奥深さを、日頃寺外に出ることのないご本尊や、さまざまな仏教美術に接することによって体感していただければ幸いです。

（松原 茂）

国宝 天台法華宗年分縁起

天台開創の歴史を語る最澄自筆文書

延暦二十五年（八〇六）から弘仁九年（八一八）にかけての文書六通を、最澄自身が書写したものである。天台法華宗に正式な僧侶である年分度者二人を認めてもらうことを上表した文書、それを許可した太政官符、年分度者の歴名、比叡山に戒壇設立を申請した文書、加えて天台法華宗の学生が守るべき項目を六か条にまとめたものが収められ、日本天台宗開創までの経過を知ることができます。最澄の日本天台宗への思いが籠められており、最澄の筆跡を伝えるとともに天台宗の歴史を物語る極めて重要な遺品であるといえるでしょう。

（島谷弘幸）

国宝 最澄像（聖徳太子及び天台高僧像のうち）

現存最古の伝教大師像

鳥や獣や草木にいたるまで、すべての存在は真実を悟って仏になることができる、そう最澄は考えました。この慈愛に満ちた教えは、天台宗にとどまらず、多彩に展開していく日本仏教の豊かな源泉となり、比叡山を拠点として連綿と受けつがれていきます。この作品は、その最澄の現存する最古の肖像。頭巾をかぶり、静かに瞼を閉じて瞑想しています。着衣などは、主に暖色系の彩色をほどこした上に、彩色による大らかな文様を描いています。温和な彩りの取り合わせが生む典雅なハーモニーは、日本列島における絵画の一特色といえます。そうした色彩重視の傾向を明確にしめす、十一世紀の希少な遺品です。

（行徳真一郎）

国宝 六道絵

全十五幅に念仏の功徳を説く

この図は、『往生要集』（天台僧・源信の著。極楽往生に関する経論の要文を集め念仏が最も大切であると説く）の記述に基づき、仏教において苦しみの世界とされる六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）の苦の様子と念仏の功徳を説いた経典説話、および閻魔王庁を全十五幅に描いたものです。その中には、中国・南宋や元の絵画の描法・画題の影響を色濃く反映したものと、伝統的なやまと絵系の描法を示すものが混在しています。しかし、制作された時代の雰囲気と共に六道の苦の陰鬱さまでもよく表すような、独特の暗さを帯びた寒色系の色調が全体に統一感を与えています。克明で的確な細部描写と破綻のない画面構成に絵師の非凡な力量がうかがえる作品です。十五幅揃っての展示は実に三十二年ぶりとなります。

（沖松健次郎）

◉六道絵　阿鼻地獄（部分）鎌倉時代・13世紀
滋賀・聖衆来迎寺蔵 罪人の口の中に熱した鉄の玉を入れる鬼 （3月28日～4月16日展示）

国宝 金銅宝相華唐草文経箱

上東門院の信仰の証

長元四年（一〇三一）、叡山の僧覚超は円仁がかつて書写した如法経を銅筒に納めなおし、横川の如法堂に埋納しました。その際、藤原道長の娘、上東門院彰子もこれに結縁して自ら書写した法華経を埋納しました。この経箱はまさにその彰子書写の法華経を容れていたものです。銅製鍛造で、隅丸長方形をしています。全面に宝相華唐草文が蹴彫され、全体に金メッキ、間地や床脚の格狭間には銀メッキを施した金銀の色彩対比が見事です。印籠蓋造の蓋と身を簡単には開けられないように指金で留める仕様は、経巻が長く保護されることを願った、一条天皇中宮の上東門院の信仰の深さを表しているかのようです。平安時代の金工品を代表する優品の一つです。

（加島　勝）

◉金銅宝相華唐草文経箱
平安時代・長元4年（1031）滋賀・延暦寺蔵
上東門院彰子ゆかりの経箱。
平安時代金工の最高傑作

重文 薬師如来及両脇侍立像

最澄自刻の伝承をもつ

延暦寺の根本中堂を模して元禄十一年（一六九八）に建立された、寛永寺根本中堂の秘仏本尊像です。中尊は滋賀の石津寺から迎えられました。肩が角張って輪郭線が直線的な体部と、それに対応するように四角い頭部はたいへん個性的です。すこし鄙びた表現にみえますが、それがかえって最澄自刻という伝承の真実味を増します。台座の蓮肉を含め一材から彫出する構造、鎬のある襞と丸みのある襞を交える翻波式衣文と呼ばれる表現は平安時代前期の特徴です。しかし、圧倒的な重量感が見られず、肉身や衣文に均整が見られることから、十世紀になってから造られたと考えられます。脇侍の日光・月光菩薩像は、慈覚大師創建という山形の立石寺から中尊と同時期に移されました。

（丸山士郎）

◎薬師如来及両脇侍立像
平安時代・10世紀（中尊）、12世紀（脇侍）東京・寛永寺蔵
最澄が自ら彫ったというヒノキ一木造りの像。初公開

■記念講演会
4月8日（土）　13:30～15:00　平成館大講堂
「特別講話　回峰行と天台のこころ」
比叡山飯室谷不動堂大阿闍梨　酒井雄哉師
事前申込制　定員380名
聴講無料（ただし、特別展「最澄と天台の国宝」の観覧券が必要です）
申込方法　官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください
＊1枚のはがきで、1人のみ申し込み可能
＊応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります
申込締切　3月22日（水）消印有効
申込先　〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-51-4平家ビル4F
アート・ベンチャー・オフィス ショウ内「天台展」講演会係
お問い合わせ　03-3485-7910（アート・ベンチャー・オフィス ショウ）

■関連イベント
4月7日（金）　18:30～19:30　本館前（雨天時は屋内）
「天台声明公演」
出演者　天台宗東京教区
聴講無料。当日ご来館の皆様はご自由にお聞きになれます

天台宗開宗1200年記念　特別展
最澄と天台の国宝
2006年3月28日（火）～5月7日（日）　東京国立博物館 平成館

主　催：東京国立博物館 天台宗 比叡山延暦寺 天台宗京都教区 読売新聞東京本社
後　援：文化庁
協　賛：大成建設 サントリー ダイワボウ情報システム 図書印刷
ニッセイ同和損害保険 日本香堂
協　力：JR東日本
観覧料：一般1300円（1100／1000）　大学・高校生900円（700／600）
小・中学生400円（300／200）
＊（　）内は、前売り／20名以上の団体料金です
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
＊作品保護のため、展示期間中作品の展示替があります

＊◉は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を表します。特に表記のないものは東京国立博物館蔵です

特別展 書の至宝
―日本と中国

大好評開催中の「書の至宝」展の後期展示作品から、見逃せない三点をご紹介します。

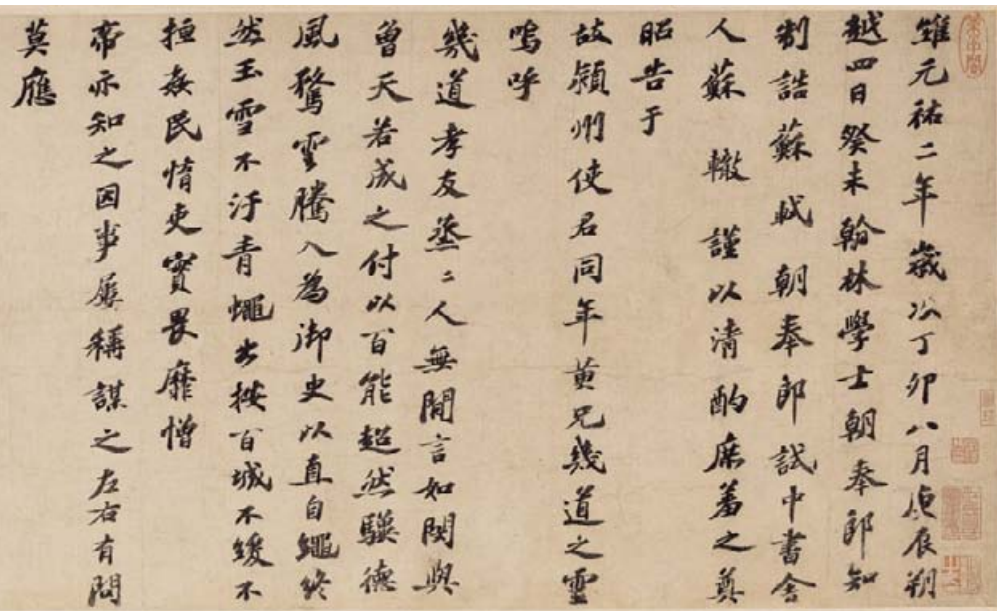
世に書聖と称えられる王羲之（三〇三？～三六一？）の真跡は存在しません。王羲之の書の実相を伝える資料には、唐の宮廷において、双鉤塡墨という技法で作られた摸本があります。双鉤とは文字の輪郭を籠字にとること、塡墨とはその中を墨でうめることを意味します。しかし実際には、毫髪ほどの線を重ねて、原本のニジミやカスレなど、微妙な表情を写し取る、きわめて精緻な摸本です。現在、双鉤塡墨本の中でも、最も信憑性の高い「喪乱帖」「孔侍中帖」「妹至帖」の三件が日本に伝存します。前の二者には桓武天皇の「延暦勅定」の印が押され、「妹至帖」も同様の紙と技法であることから、いずれも遣唐使らによって日本に舶載されたものと考えられます。

唐代に一世を風靡した王羲之の書は、次第にその形骸だけが学ばれるようになります。続く宋時代には、精彩を欠いた王羲之の流れを汲む伝統的な書風に対して、個人の精神性を重視し、自由で個性的な意趣を盛り込んだ書風が新興しました。その代表格にあたる人物が、詩書画の各方面に才能を発揮した文人の典型として知られる蘇軾（一〇三六～一一〇一）です。「祭黄幾道文巻」は、蘇軾と弟の蘇轍が、旧友の黄幾道を悼んで連名で書いた弔文です。蘇軾特有の右肩をいからせた結体で、謹厳な筆致と落ち着いた用筆を見せる本作は、元祐二年（一〇八七）蘇軾五十二歳の作です。

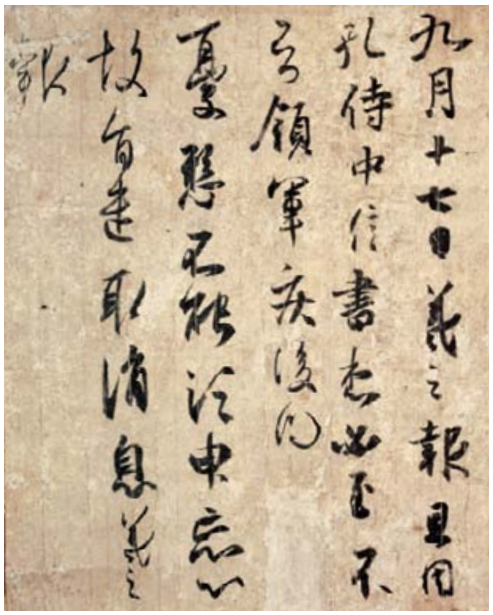
蘇軾が生命感あふれる書風を高らかに謳いあげていた頃、日本では美しい料紙を用いて、そこに繊細にして優美な感覚を盛り込んだ仮名の世界が展開されていました。仮名の完成された姿を示す「高野切」以外にも、さまざまな諧調の和様の名筆が生まれています。なかでも「継色紙」は、すさまじいまでの造形感覚といい、絶妙な書と余白との呼応といい、きわめて洗練された格調の高い古筆の代表作といえるものです。

この春、日本と中国の書の至宝の中から、あなたの琴線に触れる一作を見つけに来ませんか。

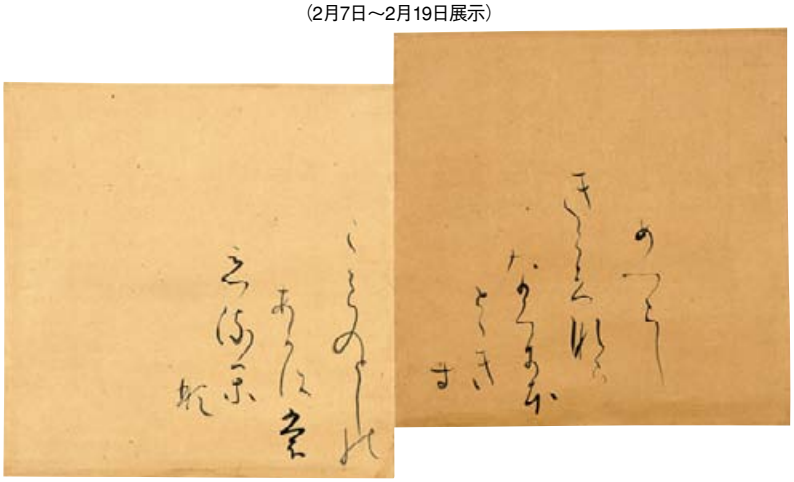
（富田　淳）



祭黄幾道文巻　蘇軾筆 北宋時代・元祐2年（1087）上海博物館蔵
大詩人蘇軾は、宋代を代表する能書でもあった



◉孔侍中帖　原本 王羲之筆 唐時代・7～8世紀 東京・前田育徳会蔵
原本の微細な表情をも写し取る技法は見事
（2月7日～2月19日展示）



◎継色紙（めつらしき）
伝小野道風筆 平安時代・10～11世紀 東京・五島美術館蔵
当時の王朝貴族の美意識をうかがうことができる（1月31日～2月19日展示）

特別展　書の至宝―日本と中国
2006年1月11日（水）～2月19日（日）
東京国立博物館　平成館

主　催：東京国立博物館　朝日新聞社　テレビ朝日　上海博物館
後　援：外務省　文化庁　中国大使館　神奈川県教育委員会
埼玉県教育委員会　千葉県教育委員会
台東区教育委員会
協　賛：大日本印刷　松下電器
協　力：ニッセイ同和損害保険　全日空
観覧料：一般1400円（1200／1100）　大学生1000円（900／800）
高校生900円（800／700）　中学生以下無料
＊（　）内は、前売り／20名以上の団体料金です
＊障害者とその介護者1名は無料です。
入館の際に障害者手帳などをご提示ください

◆上海展
中日書法珍品展　上海博物館　3月13日（月）～4月23日（日）

聖徳太子御忌日記念特別公開

国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像

聖徳太子の御忌日である2月22日（旧暦）を記念して、太子ゆかりの作品を法隆寺宝物館で公開！

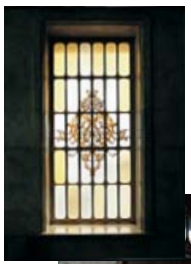
伝世品としては最古の刺繍である天寿国繡帳は、飛鳥時代に制作された旧繡帳と、鎌倉時代にこれを模造した新繡帳の遺りのよい部分を、江戸時代に貼り混ぜて一面の繡帳にしたものです。意外なことに、鮮やかな色彩のほうが旧繡帳なのです。この繡帳には亀の甲羅に四文字の刺繍銘があり、当初は百匹の亀が刺繍されていたとされ、その全文すなわち四〇〇文字が『上宮聖徳法王帝説』に記されています。それによると、推古三十年（六二二）に聖徳太子が亡くなられ、妃の橘大郎女が、推古天皇に願い出て、太子が往生した天寿国の有様を刺繍によって表したものです。下絵を描いたのは渡来系の人物で、刺繍は宮中に仕えた采女達が行いました。図様は撚りの強い糸を用いて輪郭線で縁取り、内部を緻密に繡い表す技法で、飛鳥時代の刺繍の特色をよく表しています。今回は、法隆寺から東院絵殿に安置されていた聖徳太子像と、もと同絵殿の障子絵であった聖徳太子絵伝（法隆寺献納宝物）もあわせて展示いたします。

（澤田むつ代）

◉天寿国繡帳（部分）　飛鳥時代・7世紀 奈良・中宮寺蔵
飛鳥時代の月輪の中の兎と鎌倉時代の亀。なぜ古いほうが状態がよいのだろうか

聖徳太子御忌日記念特別公開
「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」
2006年3月14日（火）～4月9日（日）　法隆寺宝物館第6室
＊平常料金（一般420円）でご覧いただけます

親と子のギャラリー



博物館ってどんなところ？

たてもの編　本館を見に行こう。

3月7日（火）～4月23日（日）　平成館企画展示室

あなたにとって東京国立博物館とはどんなところですか？

今回の「親と子のギャラリー」では、「博物館ってどんなところ？」シリーズ第３弾として、博物館内の建築物を取り上げ、「場や空間としての博物館」に迫ります。特に、本館（日本ギャラリー）にスポットを当て、「本館を読む」「本館をはかる」「本館を探る」「本館を見る」「本館を歩く」「本館を遊ぶ」という本館を知る６つの方法を紹介し、歴史ある興味深い建築としての本館の魅力を皆さんにお伝えしようと企画しています。当館の所蔵品の中で一番大きな重要文化財「本館」をぜひ見に来てください。　（吉田知加）

◆本館をプロモーション◆

本館の魅力を伝えるキャッチコピーを募集します。あなたが考えた本館を宣伝する言葉を教えてください。皆さんが考えたキャッチコピーは東博ホームページ上で随時ご覧になれます。入賞者は東博ホームページおよび館内にて発表し、オリジナルミュージアムグッズをさしあげます。

＊ホームページ上のキャッチコピー掲載について以下のことをご了承ください。
キャッチコピーとともに都道府県名、性別、年齢を掲載いたします。応募多数の場合は、掲載されない場合もあります。

応募要項

キャッチコピーとともに、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、下記まではがきまたはメールにてご応募ください。
〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館
教育普及課　本館キャッチコピー係
edu@tnm.jp

締切　3月12日（日）
＊住所、氏名、電話番号等の個人情報は、入賞の連絡にのみ使わせていただきます。企画終了後、当館の責任において破棄いたします。

幕末の怪しき仏画――

特集陳列

狩野一信の五百羅漢図

全50幅、100図の羅漢図を一挙公開

2月14日（火）～3月26日（日）　本館特別1・特別2室

知る人ぞ知る幕末の絵師・狩野一信の五百羅漢図のすべてをまとめてご覧いただける絶好の機会です。一信は仏画に秀でた画家で、その作品に千葉・成田山新勝寺の釈迦堂天井の龍図や増上寺の五百羅漢図などが知られています。

明治時代には、近代洋画の父といわれた黒田清輝をはじめ、一信の独特な画風に魅せられた画家や評者たちに注目されていました。

その遺作にして畢生の名作、東京・芝の増上寺に納められた五百羅漢図の百幅は、寺を訪れる人たちの目にふれ、感嘆の声を集めていました。戦後、人々の目にふれる機会がほとんどなくなり、一信の名も次第に聞かれなくなったようです。しかし、近年の調査研究によって、増上寺の五百羅漢図の全貌が広く知られることとなり、一信にあらためて熱い視線が注がれることとなりました。

今回ご覧いただく当館の五百羅漢図の全五十幅は、明治天皇の皇女である富美宮、泰宮から当館に下附されたものです。増上寺のものとほぼ同じ図柄ですが、かなり小ぶりなもので、一幅に二画面ずつ配し、ひとつの画面に、仏教の修行において最高の段階に達した人である羅漢を五人ずつ描いています。羅漢や背景が執拗なまでに描写されて、その鮮烈な色彩には目を奪われるでしょう。さらに大きな特徴として、当時、西洋からもたらされた絵画制作技法である陰影法などを取り入れています。その科学的理論を完全には理解して描いていなかったのか、画面に独特な感覚をもたらすことになりました。

さらに、この度は増上寺に納められる五百羅漢図のうちの二幅も、あわせてご覧いただけることとなりましたので、狩野一信という画家の妖しくも不可思議な魅力を、ぜひ堪能してください。

（松嶋雅人）

五百羅漢図　狩野一信筆 50幅のうち 江戸時代・19世紀

第42幅　七難・風（部分）
七つの災い
――荒れ狂う風と波

第37幅　神通（部分）
羅漢の神通力で悪鬼を払う
――首つりを執拗に描く

第23幅　十二頭陀・節食之部（部分）
衣食住への欲望を払う
――僧侶の妖しげな顔

第13幅　六道・鬼趣（部分）
人々が迷う六つの世界
――息苦しいほどの鬼たち

これだけは見逃せない！
おすすめのこの1点

戦慄の地獄めぐり
国宝　地獄草紙

3月14日(火)～4月9日(日)　本館2室　国宝室

◉地獄草紙　鎌倉時代・13世紀
火末虫の段。殺生・偸盗・邪淫を行い、酒を水増しして巨利を得た者が落ちる地獄という

闇の黒、人の肌の白、鮮血と炎の朱。簡潔な色の対比が印象深い画面をつくりあげているこの絵巻は、かつて岡山の安住院に伝来しました。主題は地獄。地獄とは、人々が生前自分の作った罪業により生死を繰り返す迷いの世界（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道）の中でも、苦しみの極みとされる世界です。その中にも等活・黒縄・衆合・叫喚・大叫喚・焦熱・大焦熱・無間（阿鼻）といった区分があり、さらにそれぞれに十六の小地獄（別所）が付随しているといわれます。平安時代の早い時期から、地獄に対する恐怖心を起こさせ仏道への発心を促すため、地獄絵制作の環境があったようです。この絵巻に描かれているのは『正法念処経』に基づく叫喚地獄の十六別所（小地獄）のうち、髪火流・火末虫・火雲霧（詞書では雲火霧）・雨炎火石と呼ばれる四別所分で、本来は十六すべてあったと考えられています。

見どころは的確な形態描写と画面構成、それと冒頭に挙げた簡潔で鮮烈な色遣いが生み出す生々しい地獄の様相です。陰惨さより、不思議な叙情性を感じさせるところに絵画表現としての優れた点を指摘できるといえるでしょう。

動物や虫に体を食われる苦を受ける第一段髪火流や第二段火末虫ではクローズアップ的画面構成をとっています。罪人の周囲のみ墨を刷いてほかは余白を残すことでトリミングの効果が生み出され、血まみれで闇にもがく地獄の衆生の姿が印象的に浮き上がってきます。

また燃え盛る地獄の業火や降り注ぐ火炎石、煮えたぎる金属と血の入り混じった河で苦しむ第三段火雲霧・第四段雨炎火石では、望遠的俯瞰的構成をとって受苦の姿を群集表現の中に描いています。不気味な静けさの中に響くゴーっという炎や河の音、重なり合う衆生の泣き叫ぶ声までが聞こえてきそうです。絵師の冷静な視点から、しばし地獄の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。

（沖松健次郎）

注目の特集

本館18室　近代美術

特集陳列「高野コレクション―浅井忠の油彩画」

2月7日(火)～3月19日(日)

明治の洋画家・浅井忠は、日本近代洋画の先駆者と呼ばれ、西洋画壇の育成に大きく貢献しました。高野コレクションは、実業家高野時次氏が収集した浅井作品七十三点で、氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものです。

今回の特集陳列では、このコレクションのうち、留学中に描いた油彩画や帰国後の作品など五点をご覧いただきます。滞欧中に描かれた「グレー風景」や「読書」は、画面に光を感じさせる淡い色彩が特徴です。油彩画の力作をまとめてみることのできるまたとない機会となります。また、当コレクションのほかに代表作の重文「春畝」もあわせて展示しますので、浅井作品の魅力がより一層引き立つことになるでしょう。

（松嶋雅人）

読書　浅井忠筆　明治35年（1902）
やわらかなタッチと色調で光が画面に満ちている

本館14室　工芸

特集陳列「お雛様と日本の人形」

2月21日(火)～3月26日(日)

三月三日の桃の節句は、江戸時代になると、女の子の健やかな成長を祈るおまつりとして、庶民から武家の女性にまで広く祝われることとなりました。雛まつりにちなみ、今年も恒例の雛人形の展示を行います。関西好みの次郎左衛門雛に江戸好みの古今雛、古様な立雛、雛人形と一緒に飾られた犬筥や雛道具などを、江戸時代後期の裕福な町人や大名家のように緋毛氈の上に段飾りし、華やかな雰囲気をお楽しみいただきます。また、京都・嵯峨の仏師が手遊びに製作を始めたといわれる嵯峨人形の名品や、小裂で繊細に作られた衣裳人形も展示します。かつてユニークな動きで人々を楽しませていた機巧人形は、動かしてお見せできなくて残念ですが、動く姿を想像しながらご覧ください。

（小山弓弦葉）

機巧人形 花見踊
茗荷屋半左衛門作
江戸時代後期・正徳3年(1713)
一杯飲んで花を巡る人々の楽しい様子。さて、どんな風に踊っていたのかしら？

本館16室　歴史資料

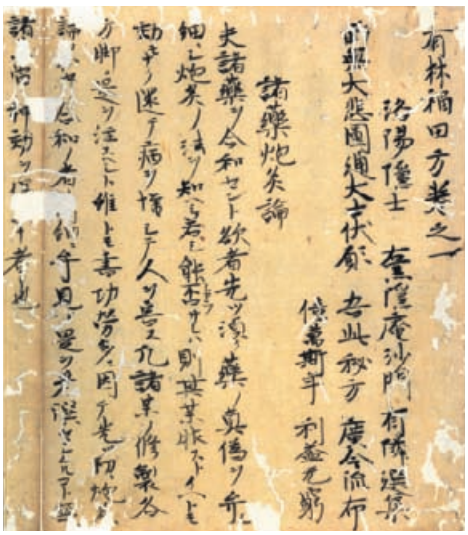
幕府の医学校の収集図書
特集陳列「医学―医学館旧蔵資料を中心に―」

2月28日(火)～4月23日(日)

明和二年（一七六五）四月、江戸幕府奥医師多紀元孝は、医学校の創設を幕府に要請し、神田佐久間町の天文台跡地に講堂を建て躋寿館と称しました。躋寿館は、寛政三年（一七九一）、元簡の代に幕府の所管となり、その名称も「医学館」と改称し、官立の医学校となりました。医学の教育に従事する一方、多くの人々の協力のもと、古今の貴重な医書を収集、考証した功績が高く評価されています。

明治時代、博物局が引継いだ医学館の旧蔵書は、２０００冊を数えましたが、現在は当館、内閣文庫及び宮内庁書陵部に分蔵されています。その旧蔵資料を中心に、和漢の古医書の収集、校勘、謄写、出版事業などを行った医学館の歴史をご紹介いたします。

（高橋裕次）



有林福田方　巻1　室町時代・文明2年（1470）写
僧医の有隣が各科の症状や薬方を、約160種の中国の医学書から撰述したもの。自身の経験や私見を交えて記している

盆　北海道アイヌ　19世紀
木製の盆。一木を刳りこんだ面に左右対称のモレウと呼ばれる渦巻き文や鱗文を彫刻している

本館15室　民族資料

調度や衣服を飾る文様
特集陳列「アイヌの文様」

3月19日(日)まで

アイヌの人びとは衣服や装飾品、日常使われる道具類をさまざまな文様で飾りました。女性の文様が布と糸と針で紡ぎだされるのに対して、男性の文様は小刀であるマキリなどを使った彫刻で生み出されます。それらは代表的なモレウとよばれる渦巻き文や、アイウシ文と呼ばれる棘をもったものなど多彩な種類があります。これらの文様は、アイヌの人びとの儀式や踊りなど、自然と調和した生活場面の動きの中で、大きなうねりとなってさざめかし見映えがしたことでしょう。木彫や衣服などの、細部にまで丁寧に施された文様の数々をぜひご覧ください。

（日高　慎）

本館特別4室

古代の葬送用品
特集陳列「送りの造形」

1月11日(水)～3月12日(日)

人生のおわりが告げられたとき、古代の人びとはさまざまな葬送用の品で亡くなった人をとむらいました。骨を収める壺や遺体のための枕など、葬送専用の品々を作り出しました。土の中に埋められるものであるにも関わらず、さまざまな装飾を施したり丁寧に磨いたりしています。今回の陳列では、平成十七年度考古資料相互貸借事業により香川県歴史博物館から借用した組合式埴質棺と、石枕および棺として使われた壺類など、弥生時代から平安時代までの人びとが葬送にあたって創りだした造形の一端を紹介いたします。（日高　慎）

石枕　千葉県下総町高倉出土　古墳時代・5～6世紀
滑石製の石枕。頭が置かれるところの周りには石製立花を立てる小孔がある

東洋館第3室

黒から加彩へ
特集陳列「バンチェンの土器」

3月12日(日)まで

真っ黒な土器（黒陶）とクリーム色に赤の彩りを足した土器（加彩陶）。これらのユニークな土器は、一九六〇年代にタイ東北部のバンチェンという村で発見され、世界中から注目を集めました。黒陶（四〇〇〇年～二五〇〇年前）は表面こそ黒ですが、中身はグレーに近くなります。そのため、三角形やS字形などをリズミカルに刻み込んだ文様が、漆黒の器面に白っぽく浮かび上がります。一方、加彩陶（三〇〇〇～二〇〇〇年前）の繊細な文様は、刻むのではなく描くことで表現されています。色、文様の付け方などは大きく変わりますが、しかし丸底に台を付ける造形やS字形を基調にした文様構成は変わりません。黒陶から加彩陶へ――ダイナミックなうつろいの中に伝統が光るバンチェンの土器を、今回初めて一堂に公開いたします。

（川村佳男）

黒陶刻文台付鉢　伝タイ東北部
前2千年紀～前1千年紀中頃　個人蔵
刻線の内側は縄文、外側は無文だが丁寧に磨いてある

＊3月13日（月）～20日（月）は東洋館は、展示ケースメンテナンスのため全室閉室します

本館2室　国宝室

平安装飾経の名品

国宝 法華経（久能寺経）方便品・厳王品

1月31日(火)～3月12日(日)

熱心な『法華経』信仰と極楽浄土に成仏したいという宮廷貴族の真摯な気持ちを反映し、美の限りを尽くして作られた平安時代後期の代表的な装飾経です。もとは『法華経』の二十八品を各一巻ごとに書写する一品経の最古の遺品で、永治二年（一一四二）二月、待賢門院（鳥羽法皇中宮藤原璋子・四十二歳）の出家に際して、鳥羽法皇、美福門院をはじめ近臣や女房らが加わった逆修供養（生前に自らの死後の冥福を祈って仏事を行うこと）のために作られました。鉄舟寺の前身である久能寺に伝来したことからこの名で呼ばれています。（島谷弘幸）

◉法華経（久能寺経）厳王品（部分）
平安時代・12世紀　静岡・鉄舟寺蔵
華麗な写経にこめられた切なる願い

本館3室　宮廷の美術

乱世の武士のダンディズム

国宝 平治物語絵巻 六波羅行幸巻

2月7日(火)～3月19日(日)

きりりと身構えた武士たちは、赤・青・萌黄・白などの直垂に、黒・紺・緋色といった鎧をまとい、豪壮華麗ないでたちです。平治の乱（一一五九）は、藤原信頼と信西との反目から起こった戦乱。写真は、信頼に幽閉された二条天皇がからくも皇居を脱出して、頼みとする平清盛の六波羅邸に辿り着く緊迫の一瞬です。十七歳の若き二条天皇の目には、これを迎え奉る平家の武者たちの男気あふれる甲冑姿が、この上なく頼もしく映ったことでしょう。武者たちの晴れ姿の入念な描写もご堪能ください。（行徳真一郎）

◉平治物語絵巻　六波羅行幸巻（部分）鎌倉時代・13世紀
有職故実にもとづいた色鮮やかな甲冑姿が壮観

本館3室　禅と水墨画

水墨画の巨匠・周文作か

国宝 竹斎読書図

2月7日(火)～3月19日(日)

絵の右半分では聳え立つ山が視線を押し止め、左半分では遠景が視線を誘い込むように淡い墨でぼんやりと描かれて奥行きを感じさせます。小画面にもかかわらず広々とした余韻のある空間が表現されています。このような山水画としての優れた質と、図上に書かれた漢詩文から推測される制作時期は、本図をこの時期の水墨画の巨匠、周文の遺作とみなすのに十分でしょう。（救仁郷秀明）

◉竹斎読書図（部分）　伝周文筆
文安4年（1447）竺雲等連序・江西龍派等五僧題詩
室町時代・15世紀
室町時代の水墨画を代表する画家、周文の幻の名作（？）

本館7室　屏風と襖絵

王羲之の故事を描く

蘭亭曲水図屏風

1月17日(火)～2月26日(日)

中国晋代（四世紀）、会稽山の蘭亭で王羲之ら四十一人の文雅の友が集い、曲水に盃を流しつつ詩を詠んだ、という故事を描いたものです。与謝蕪村は独学で絵画を学び、明清画からやまと絵まで、さまざまな画風を取り入れ独自の文人画を大成した画家です。賛には王羲之の序文『蘭亭之序』が書かれ、写生的な表現には南頻派の影響がみられます。大気や曲水の透明感、色とりどりの瑞々しい緑葉、文士の寛いだ姿などを観ていると、あたかもその宴に参加しているような親しみを感じます。蕪村の讃岐時代の初期、五十一歳の作です。（小野真由美）

蘭亭曲水図屏風（部分）
与謝蕪村筆　江戸時代・明和3年（1766）
特別展「書の至宝―日本と中国」で公開中の王羲之の作品とあわせて鑑賞するのも一興

本館13室　陶磁

何を描いたのかな？

織部脚付角鉢　美濃

3月12日(日)まで

織部の意匠には奇抜なものがたくさんあります。この角鉢は白土と赤土とを組み合わせ、白土の部分には緑釉を掛け、赤土の部分に白泥で模様を描き、銹絵で輪郭を描いています。このタイプのものは織部の中でもとりわけ奇抜な意匠が多いことで知られています。

直線と鉤の手に、花にも見え、はたまた吊るし柿にも見えるという不思議な模様が白抜きで描かれています。底の脚の付け方からすれば、この模様は横に流れるように描かれていることになります。この模様、さて、皆様には何に見えるでしょうか。（伊藤嘉章）

織部脚付角鉢　美濃
江戸時代・17世紀
織部特有の文様の面白さを楽しんで

本館8室

蓮下絵和歌巻断簡

本阿弥光悦筆

1月17日(火)～2月26日(日)

「蓮下絵和歌巻」は、蕾から開花を経て花弁を散らすまでの蓮の一生を描いた下絵に、本阿弥光悦が『小倉百人一首』を揮毫したものです。もとは巻子装でしたが、関東大震災で惜しくも大半を焼失し、断簡のかたちで諸家に所蔵されます。

当初、巻末に位置したこの一幅は、ようやく開花した蓮の花が水面に揺れる場面を、金銀泥によるたらしこみの技法で叙情豊かに描き、蓮を伝う風のように光悦の筆が散らし書きの妙を発揮しています。特別展「書の至宝」とともに、奇跡的に残ったこの一幅もぜひご鑑賞ください。（丸山猶計）

蓮下絵和歌巻断簡　本阿弥光悦筆
江戸時代・17世紀　松永安左エ門氏寄贈
「前大僧正／慈円／おほけなく／浮世の／民に／おほふかな／我立／杣に／墨染の／袖」
ほぼ中央の「ほふか」の筆致。細くゆったりした線はまさに絶妙

本館11室　彫刻

表情のバリエーションを楽しんで

十二神将立像

3月19日(日)まで

十二神将とは、薬師如来とその信者を守るいわばガードマンです。その多くは怖い顔をして敵を威嚇するように表されますが、髪を逆立てたり、兜をかぶったり、大きく口を開けて怒声を発するようだったり、口を一文字に固く閉じたりと、さまざまな容貌につくられます。十二体の表情や何を身につけているかに注目すると、仏師が変化をつけるために工夫した様子がわかります。子神像は怒りの表情ながらどこか滑稽味を帯び、巳神像は若々しい武将のような端正な容貌です。自分の干支の像に対面するのもまた一興。十二体揃えて展示します。（浅見龍介）

十二神将立像　鎌倉時代・12～13世紀　神奈川・曹源寺蔵
端正で凛とした顔の巳神（右）、怒りの表情に滑稽味のある子神（左）

東洋館第1室　彫刻

仏像はどこにあった？

インド・ガンダーラ・中国の仏像

常設展示

東洋館第1室には、インド、ガンダーラと中国の石の仏像彫刻があります。これらは寺のどこにあったのでしょう。私たちが仏像をみるときは、寺に行き、五重塔を横目にみながら金堂や講堂に入って堂内の仏像を拝みます。しかし、ガンダーラでは堂の中でなく、塔の壁に仏像が貼り付けてありました。つまり仏像は浮彫で、背面はのみの痕が残るばかりです。さて、中国の仏像にも浮彫の作品があります。これらは岩山をくりぬいて作られた石窟寺院の中にあったものです。窟の中の壁に貼りつけたようにみえますが、実際には仏像の部分を彫り残して作られており、背中はもともと岩山とくっついていました。展示室には丸彫の像もあります。これは堂の中にあったものでしょう。同じ石の仏像でも作り方、安置のしかたは実にいろいろなのです。（小泉惠英）

ガンダーラの仏像の背面にはのみのあとが…

東洋館第5室　中国考古

青銅器の造形を土器で再現

灰陶壺

6月4日(日)まで

灰色に焼き上げられた土器。鋭く広がる口、なめらかな曲線を描く首、強く張りだした胴、直線的な台。各部分に緊張感がみなぎっています。青銅製の壺を模したもので、本来は持ち上げるために付けられる輪が浮彫になっているなど、簡略化された部分もありますが、張り出しとくびれが当時の青銅器よりさらに強調され、めりはりのある形になっています。墓に供えるために作られた非実用の土器ですが、厳しさを感じさせる造形は、当時の人々が死後の生活をいかに重要視したかよく示しています。（谷　豊信）

灰陶壺
中国出土　前漢時代・前1世紀
横河民輔氏寄贈
死者に供えるために作られたもの

とうはく花だより4

紅白梅

東博でいち早く春を告げるのは、法隆寺宝物館前の紅白梅です。二月、小さな梅林はあたりに気品のある芳香を放ちます。

法隆寺宝物館から梅林を見る

梅は中国原産、バラ科の落葉高木です。奈良時代にはすでに日本でもポピュラーな花だったらしく、万葉集の歌に詠まれた数は萩に次いで二位。もちろん美術作品にも多くの梅が登場します。当館の梅といえば、仁清の色絵月梅図茶壺（本館13室で展示中）でしょう。月の光を浴びた夜の梅は日本美術における重要なイメージのひとつです。有名な光琳の紅白梅図屏風（MOA美術館蔵）も月光をうけた水の流れと、紅白梅を描いています。早春の夜の湿った空気に、香りはいっそう高く梅林に遊ぶ人を包み込んだことでしょう。

法隆寺宝物館中二階資料室のソファから眺めるのがお勧め。今年は表慶館改修工事のため、いつものような美しい景色は楽しんでいただけませんが、春を告げる香りは堪能できるはずです。

梅一輪　一輪ほどの暖かさ　嵐雪
（小林　牧）

東博の樹木をめぐる樹木ツアーが生涯学習ボランティアによって行われています。この連載もボランティアガイドの資料を参考にしています。ガイドの日程は本誌裏表紙をご覧ください。

＊3月13日（月）～20日（月）は東洋館は、展示ケースメンテナンスのため全室閉室します

広報室のスタッフ。右から小林徹さん、遠藤楽子さん、小林牧さん、近藤夢美さん、柿沼千栄さん

広報室は本館中2階つきあたり国際交流室と同居。館内一にぎやかな部屋

ようこそ！博物館の舞台裏へ

第8回

広報室のしごと―博物館と来館者をつなぐ

博物館の業務を学ぶインターンが東京国立博物館広報室をルポします。読者の皆さんの目線に一番近い私から、素朴な疑問をぶつけ、広報の日々の仕事をレポートします。

初めまして広報室インターンの辻可愛と申します。東博では将来の優秀な学芸員育成のため、インターンの受け入れを実施しています。私は現在大学四年生。デザインを専攻しています。美術への興味がつのり、多くの人にも身近に親しんでもらいたいという思いをもっています。そこで、美術の普及や広報の仕事について博物館でより具体的に学びたいと広報室インターンに応募しました。まだ始まってから一週間もたたないある日、室長の小林さんから今回の「博物館の舞台裏」を担当してもらいます、とお話をうけました。たいへん驚きましたが、広報室の仕事を勉強させていただくつもりで取材をしてみようと決意しました。

広報の仕事をなんとなくわかる方も、コウホウシツってなに？　という方もおられるでしょう。東博広報室のスタッフは室長の小林牧さん、小林徹さん、遠藤楽子さん、柿沼千栄さん、近藤夢美さんの五人です。では一人一人に話を聞き、広報室の仕事を探ってみましょう。

全体のまとめ役　小林　牧さん

「広報でもっとも大切なのは〈何を伝えるか〉です」と、室長の小林さん。展示や催しなどの情報はもちろん、館内のさまざまな業務やできごとについての情報を集め、何が重要かを判断し、どう伝えるかを決めるのが小林さんの役割です。

情報の伝達のし方はさまざまです。手がける媒体も業務内容も多岐にわたります。

「博物館の展示構成や開館時間、休館日などを掲載した総合案内パンフレット、年間の展示予定パンフレットなど、来館者のためのさまざまな印刷物を作っています。その時々の展示や催しの情報を掲載する「東京国立博物館ニュース」、もっと詳しい情報をタイムリーに届けるホームページも広報室の管轄です。こうした自主メディアの制作に加え、マスコミの媒体を利用した広報活動も重要です。東博が取り上げられるように、新聞、雑誌、テレビなどのメディアに定期的に情報を提供しています」

マスコミからの情報提供の依頼や取材申し込みは十一月ひと月で四十件。写真や情報を送るだけという簡単なものから、館内取材・撮影のアレンジが必要なもの、新たな執筆依頼が生じるものなどさまざまです。

取材では、こちらの伝えたいことだけを伝えるのではなく相手が知りたいことは何かを把握し、それに応じた情報を提供するという柔軟な対応が必要だそうです。例えば、新聞と情報誌では求める情報が違います。

また、情報提供した媒体からの内容確認のファックスや問い合わせの電話もひっきりなし。小林さんはその一つ一つに方向付けをしながら、情報のコントロールタワーとなっています。

丁寧な予習で取材を乗り切る　遠藤　楽子さん

特別展ごとの広報プロジェクト、週一回のメールマガジンの配信、英語版ホームページの更新、「東京国立博物館ニュース」の背表紙にあるカレンダーの編集に加え、月一回のマスコミ向け定期情報の制作、執筆依頼や取材対応など、遠藤さんの業務は多岐にわたります。

実は、二〇〇五年八月に広報室に入ったばかりの新人さんなのだそうです。

「日本の美術を見て、ああいいな、と感じていただける、その助けになるような情報を届けたいと思っています。それも、改まってお勉強というのではなくさりげなく伝えることができればいいですね。取材では何が起こるか分からないので予習、準備を心がけています。展示企画についての予習はもちろん、所蔵者の意向で撮影ができない作品、保存や安

ある日の広報室　今日は「チラシ」でてんてこ舞い！

その1　3つの企画のチラシ・ポスター同時進行！

3月に開催される特別公開「天寿国繍帳と聖徳太子像」のチラシ案を作成中。メインビジュアルを選定し、デザインイメージをデザイナーに伝えるためのラフレイアウトを制作。「キャッチコピーは何にしよう」

デザイナーから3月の特別展「最澄と天台の国宝」のデザイン案が届いた。複数の案からひとつに絞り込む

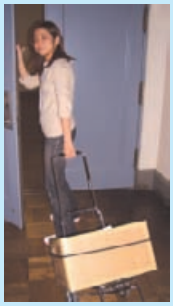
1月の特別展「書の至宝―日本と中国」校正刷りをチェック。広報室のほか、特別展室、展覧会チーフ、会計、総務、渉外で確認。間違いのないよう、多くの人の目を通すことが重要

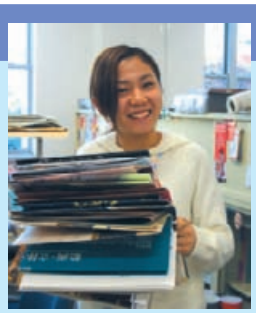
ある日の広報室　今日は「チラシ」でてんてこ舞い！　その2 チラシ補充・ポスター貼り替えに密着！

↑館内のポスターを貼り替える。全国から届くポスターも、東博の来館者の興味を引きそうなものを選択して貼る。担当者の好みが反映されることも…

↑本館でチラシ補充。それぞれのチラシをお客さんが取りやすいように場所や組み合わせも考える。お客さんにとってチラシは重要な情報源。たくさんなくなっていれば成功

→展覧会の内容や会期を確認して、館内で配布するチラシを選別。補充するチラシをダンボールに入れ準備完了。出発！





↑全国の美術館・博物館から届くポスター・チラシを整理。一日に届くポスターはこのくらい

全の観点から取材はどこまで可能かを確認するなど、事前にやっておけば現場はスムーズにいきます」

きめ細かいコミュニケーションが広報のツボでしょうか。

頼もしいウェブマスター　小林 徹さんと柿沼 千栄さん

皆さんも東博のホームページに一度は訪れたことがあると思います。そのホームページを管理しているのが小林徹さんと柿沼さんです。二〇〇四年の四月に大幅リニューアルし、展示の見どころ情報はもちろん、催し物の詳細情報、展示作品の全リストも見られると好評です。

しかし、東博では展示替えがひんぱんに行われるのに加え、会期間際に展示作品が変更されることもあります。随時、細かな変更が可能というのがホームページの長所です。常に最新の情報を提供するために更新は毎日。少ないときで数ヶ所、多いときには数十ヶ所にのぼります。

「いちばん大切なのは正確さ。見やすく読みやすいことも重要です」と柿沼さん。写真等やアイコンで見やすいレイアウトを心がけます。画像は作品が美しく見えるように、かつすぐにページが開けるようデータを軽くすることが大切だそうです。文章の行間をつめすぎないように、特定の環境でしか表示されない機種依存文字を使用しないようにするなど気を配ります。

小林さんは東博ホームページの裏技を語ってくれました。「過去・未来の東博の展示の情報がわかるんです。今日の博物館のページをぜひ見てみてください。画面左下に出るカレンダーで日付をクリックすれば、その日の情報がでてきます。前回見た作品を確かめたいとき、あるいは次回何が見られるのか前もって知りたいときに便利です」

ぜひ、ホームページを活用してお目当ての作品に会いに来てください。

↑ホームページは日々更新が必要。今日の作業を確認

フットワークで広報室を支える　近藤 夢美さん

近藤さんは掲載記事のスクラップや貸し出し写真の整理、上野公園掲示板の原稿制作、ハローダイヤルへの情報提供、資料請求や問い合わせの対応など広報室で発生する事務諸事を一手に引き受けています。フットワークの軽さは広報室一。全国の美術館・博物館から送られてくるポスター・チラシの整理と館内掲示・補充も行っています。

ポスターの掲示やチラシの補充のときは重いカートを引いて広い館内を回ります。「お客様や館内の様子を見ることができるので楽しい」と近藤さんは言います。

博物館ニュースのプレゼント応募葉書の管理も主に近藤さんの仕事。ニュースの感想を書いてくださる方が大勢います。

「お客さんの声が聞けるのは楽しいし、ときどきはっとするような指摘もあります」

館の思いとお客様の思いをつなぐのが広報室の仕事かもしれません。

このほか広報室では特別展ごとに広報計画を立て、ポスター、チラシの企画・制作や記者発表、内見会の企画・運営などを行っています。

様々な業務を分担しながら五人全員で作り上げているという印象を受けました。

皆さんが手にする東博の情報は、ここ広報室で手がけたものです。「伝えたい」という思いがたっぷりこもっているはずです。このルポもそんな気持ちで書きました。

（構成　辻　可愛・小林　牧）

↑ニュースのプレゼントの応募はがき。読者の感想や意見を直接知る重要なアイテム。今号のプレゼント情報は14ページに掲載

↑「書の至宝―日本と中国」記者発表会　2005年10月19日　日本外国特派員協会にて

ある日の広報室　今日は「チラシ」でてんてこ舞い！　その3 「博物館に初もうで」のチラシ納品

↑赤いリフターでチラシ用の棚へ運ぶ。リフターの扱いは難しいようだ

↑チラシ納品の連絡をうけ、急いで「トラックヤード」と呼ばれる搬入口へ。運送会社の車を誘導

↑館内配布を待つチラシ・パンフレット

↑車からチラシを運び出し、パレットの上に

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より一年（入会月の翌年同月末日まで）有効

賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費

特別会員　100万円以上
維持会員　法人　20万円
　　個人　5万円

特典

●特別展の特別内覧会にご招待
●東京国立博物館ニュースの送付

＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
＊ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員（TNM Members）入会申込書をお送りします。
＊お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部
賛助会担当
TEL03-3822-1111（代）

東京国立博物館賛助会員　2005年12月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社 コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様
山越 保子 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京菓匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
篠内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様
櫛田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
山本 富三郎 様
寺浦 信之 様
高木 弘幸 様
高木 美華子 様
暁飯島工業株式会社 様
山岡 ユウ子 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
池嶋 洋次 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
小笠原 繁 様

〈ほか20名4社、順不同〉

◆コンサート開催のお知らせ

巨匠ジェラール・プーレと仲間たち
～コンサート・イン・ミュージアム～

日　時　2月25日（土）　18:00開演
会　場　東京国立博物館 平成館ラウンジ
出　演　ジェラール・プーレ（ヴァイオリン）
　　ミッシェル・ルチェック（クラリネット）
　　川島 余里（ピアノ）
主　催　東京国立博物館
曲　目　クラリネットとピアノのための三重奏 ハチャトリアン
　　クラリネットとピアノのためのソナタ プーランク ほか
料　金　一　般　4000円（平常展観覧券付）
　　ペア券　7000円（平常展観覧券付）
　　学　生　2500円（平常展観覧券付）
　　200席　全席自由（学生は50席まで）

スプリングコンサート

日　時　**3月13日（月）　19:00開演**
会　場　東京国立博物館 本館特別5室
出　演　許　可（二胡）
　　中島 由紀（ピアノ）
　　宍戸 游子（お話）
主　催　東京国立博物館　サロン・ド・ソネット
曲　目　**白鳥　サン・サーンス**
　　天山風情　王 建民
　　チャールダーシュ　モンティ　ほか
料　金　5000円（平常展観覧券付）200席　全席自由

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売り場でチケット販売
受　付　開館日の9:30～閉館30分前（月曜休館）
●電話予約販売
申込先　東京国立博物館イベント担当　TEL03-3821-9270
受　付　月曜日～金曜日の9:30～17:00（祝日は除く）
＊チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡しします
引換時間　開館日の9:30～閉館30分前（月曜休館）

※各イベント詳細は、東京国立博物館イベント担当（03-3821-9270）または、当館ホームページでご確認ください
※お車でのご来館はご遠慮ください

◆東洋館（アジアギャラリー）閉室のお知らせ

3月13日（月）～20日（月）まで、東洋館（アジアギャラリー）は、展示ケースメンテナンスのため全室閉室いたします。本館、平成館、法隆寺宝物館は期間中もご観覧いただけます。

◆表慶館改修工事のお知らせ

8月まで、表慶館は改修工事のため閉館いたします。工事中はご迷惑をおかけいたしますが、ご了承くださいますようお願いします。

◆聖徳太子御忌日記念特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」カタログプレゼント

本誌5ページで紹介した特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」のカタログを抽選で10名様にプレゼント。締め切りは2月20日（月）。

◆招待券プレゼント

本誌2～3ページで紹介した天台宗開宗1200年記念特別展「最澄と天台の国宝」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントします。締め切りは2月20日（月）。

プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、職業、希望賞品（カタログか招待券のいずれか一方）、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。締め切りは2月20日（月）、発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712　台東区上野公園13-9　東京国立博物館　広報室
「東博ニュース2・3月号」プレゼント係

東京国立博物館友の会＆パスポート

友の会　年会費 1万円 発行日から1年間有効

特　典　東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート　一般 3000円 学生 2000円
発行日から1年間有効

特　典　東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会
加入者名（振替先）　東京国立博物館友の会
口座番号　00160−6−406616
金　　額　1万円
＊振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号（パンフレット、ウェブサイト参照）を楷書でご記入ください

パスポート
加入者名（振替先）　東京国立博物館パスポート
口座番号　00120−3−665737
金　　額　一般3000円、学生2000円
＊振替用紙には申込区分（一般か学生）、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
＊振替手数料はお客様のご負担となります
＊郵便振替でのお申込には2週間かかります

◆お問い合わせ
TEL 03−3822−1111（代）　友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間（6冊分）1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

◆お申し込みは郵便振替で
加入者名（振替先）　東京国立博物館ニュース
口座番号　00100−2−388101
＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を楷書でご記入ください
＊お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください
＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
＊振替手数料は申込者のご負担となります
＊次号より送付ご希望の場合、締め切りは2006年3月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間： 9時30分〜17時、4月〜12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月〜9月の土・日・祝・休日は18時まで（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日： 毎週月曜日（祝日、休日の場合は翌日）、年末年始（12月28日〜1月1日）。ゴールデンウイークおよびお盆期間（8月13日〜8月15日）は原則として無休

平常展観覧料金
一般420（210）円、大学生130（70）円
＊（　）内は20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
＊満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

TOPICS

◆ニュージーランド 国立博物館 テ・パパ・トガレワ
「日本文化の輝き—東京国立博物館名宝展」
3月4日(土)〜5月14日(日)

国立博物館では東京、京都、奈良の三館が順番に、海外の美術館・博物館とお互いの所蔵品を紹介する交流展を毎年行っております。東京国立博物館は、一九九四年のベルギー王立美術館での「将軍の時代—日本近世の装飾美術」、一九九九年の香港芸術館での「十九世紀日本芸術」を開催してまいりましたが、二〇〇六年三月四日からニュージーランドのテ・パパで、「日本文化の輝き—東京国立博物館名宝展」を行うこととなりました。日本の文化や美術の歴史を、「考古」「祈り」「武家の装い」「教養—文学・茶の湯・能」「江戸の生活文化」という五つのテーマに分けて、国宝四点を含む百三十一件で紹介するものです。日本の文化・美術を通史的に概観する南半球での展覧会は初めてのことです。テ・パパからは二〇〇七年に、ニュージーランド原住の民族であるマオリの文化を紹介する展覧会が当館で開催される予定です。ちなみにテ・パパとは「われわれの大地」という意味で、それが博物館の名称となっています。

（原田一敏）

一休宗純像　墨斎筆 室町時代・15世紀

黒楽鶴亀文茶碗　「道八」刻銘 仁阿弥道八作
江戸時代・19世紀

◆MUSEUM599号（平成17年12月15日発行）の掲載論文

①「東京国立博物館蔵・藤田乗因筆〈六六武将賛〉について—松花堂流の志向した〈書き分け〉をめぐる考察—」
川畑 薫（日本学術振興会特別研究員）

②「池大雅筆〈西湖春景・銭塘観潮図屏風〉の主題考察—図様と文学的典拠を探る—」
出光佐千子（セインズベリー日本藝術研究所ハンダ・フェロー・慶應義塾大学博士課程）

③「土田麦僊試論—《明粧》を中心にして」
古田 亮（東京国立近代美術館主任研究官）

④「国沢新九郎筆《ランプと洋書》について」
土屋裕子（当館保存修復室研究員）

〈京都国立博物館〉
開催中〜2／12（日）　新春特集陳列「京都社寺伝来の名刀」
開催中〜3／26（日）　新春特集陳列「神像と獅子・狛犬」

〈奈良国立博物館〉
2／14（火）〜3／21（火・祝）　特別陳列「お水取り」

〈九州国立博物館〉
開催中〜4／2（日）　開館記念特別展第二弾「中国 美の十字路」

※講座・講演会、友の会＆パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みに際してご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただくものです。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保護に万全を尽くします。

※表紙：◉天寿国繡帳
飛鳥時代・7世紀　奈良・中宮寺蔵

東京国立博物館 2月・3月の展示・催し物

2006年2月

1	WED	15:00 13:30 15:00 「中世の手箱―扇散蒔絵手箱を中心に」15:30 本館1階エントランス
2	THU	14:00 14:30 「夢見る唐三彩―国際都市が愛した造形―」15:30 東洋館1階エントランス
3	FRI	14:30 14:00
4	SAT	13:30 14:00 14:30 15:00
5	SUN	14:00 14:30
6	MON	休館日
7	TUE	列品解説「送りの造形」 14:00 本館特別4室 「釈迦の母―摩耶夫人及び天人像について―」15:30 法隆寺宝物館1階エントランス
8	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00 「中世の手箱―扇散蒔絵手箱を中心に」15:30 本館1階エントランス
9	THU	14:00 14:00 14:30 「夢見る唐三彩―国際都市が愛した造形―」15:30 東洋館1階エントランス
10	FRI	14:30 14:00 「ミイラを覆いつくすもの―1枚の布―」15:30 東洋館1階エントランス
11	SAT	建国記念の日 14:00 14:30 15:00 「近代洋画の先驅者、浅井忠」15:30 本館1階エントランス
12	SUN	14:00 14:30 「狩野元信筆『囲棋観瀑図』について」15:30 本館1階エントランス
13	MON	休館日
14	TUE	列品解説「御正体―鏡像と懸仏―」 14:00 本館12室
15	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00 「近代洋画の先驅者、浅井忠」15:30 本館1階エントランス
16	THU	14:00 14:30
17	FRI	14:30 14:00 「ミイラを覆いつくすもの―1枚の布―」15:30 東洋館1階エントランス
18	SAT	月例講演会「絵巻入門」 13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 14:30 15:00
19	SUN	12:30、14:00 14:00 14:30 「狩野元信筆『囲棋観瀑図』について」 特別展「書の至宝―日本と中国」最終日 15:30 本館1階エントランス
20	MON	休館日
21	TUE	列品解説「狩野一信の五百羅漢図」 14:00 本館特別2室
22	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00 「近代洋画の先驅者、浅井忠」15:30 本館1階エントランス
23	THU	14:00 14:30 「ミイラを覆いつくすもの―1枚の布―」15:30 東洋館1階エントランス
24	FRI	14:30 14:00
25	SAT	「巨匠ジェラール・プーレと仲間たち」18:00 平成館ラウンジ＊1 14:00 14:30 15:00
26	SUN	14:00 14:00 14:30 「狩野元信筆『囲棋観瀑図』について」15:30 本館1階エントランス
27	MON	休館日
28	TUE	列品解説「名物三日月宗近について」 14:00 本館13室

2006年3月

1	WED	15:00 13:30 15:00
2	THU	14:00 14:30
3	FRI	14:30 14:00
4	SAT	13:30 14:00 14:30 15:00
5	SUN	14:00 14:30
6	MON	休館日
7	TUE	列品解説「姿を執った神々」 14:00 本館11室
8	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00
9	THU	14:00 14:00 14:30
10	FRI	14:30 14:00
11	SAT	14:00 14:30 15:00 春の庭園開放（4/16まで）
12	SUN	14:00 14:30
13	MON	休館日 スプリングコンサート19:00 本館特別5室＊2
14	TUE	特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」 列品解説「古墳時代の飾大刀」 14:00 平成館考古展示室
15	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00
16	THU	14:00 14:30
17	FRI	連続講座「聖徳太子の美術 第1講・第2講」 13:15 平成館大講堂＊3 14:30 14:00
18	SAT	連続講座「聖徳太子の美術 第3講・第4講」 13:00 平成館大講堂＊3 13:30 14:00 14:30 15:00
19	SUN	連続講座「聖徳太子の美術 第5講」 13:00 平成館大講堂＊3 12:30、14:00 14:00 14:30
20	MON	休館日
21	TUE	春分の日
22	WED	14:00 14:30 15:00 13:30 15:00
23	THU	14:00 14:30
24	FRI	14:30 14:00
25	SAT	月例講演会「仏像と日本美術」 13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 15:00
26	SUN	14:00 14:00 14:30
27	MON	休館日
28	TUE	列品解説「医学館旧蔵本と東京国立博物館の資料」14:00 本館16室 特別展「最澄と天台の国宝」
29	WED	14:30 15:00 13:30
30	THU	14:00 14:30
31	FRI	夜間開館（20:00まで） 14:30 14:00

5/7まで
4/9まで

＝ボランティアによる本館ハイライトツアー ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる陶磁エリアガイド ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる彫刻ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる樹木ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる考古展示室ガイド …… 集合場所：平成館考古展示室入口
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
＝ボランティアによる応挙館茶会 ……集合場所：本館1階エントランス
（参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布）
＝ボランティアによる九条館茶会 ……集合場所：本館1階エントランス
（参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布）
＝ボランティアによる庭園茶室ツアー……集合場所：本館1階エントランス
（開始1時間前に本館1階で整理券配布）
＝ボランティアによる英語ガイド（本館ハイライト） ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる英語ガイド（浮世絵） ……集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる英語ガイド（法隆寺宝物館） ……集合場所：本館1階エントランス
＝東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク

＊1,2は有料イベントです（本誌14ページをご覧ください）
＊3は事前申込制。締切は1月31日（火）（前号7ページをご覧ください）
※上記の予定は予告なく変更になることがあります。
当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください

東京国立博物館ニュース 第675号 平成18年2月1日発行（隔月1回 偶数月発行） 編集／東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館
発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL 03-3822-1111（大代表） ＊ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ〈URL〉http://www.NatMus.jp/ 制作・印刷／（株）DNPアーカイブ・コム